

科目名	救急救命処置概論II			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (2単位)	配当学年・時期	救急救命士科1年	後期	必修・選択
〔授業の目的・ねらい〕							
救急活動で使用する観察資器材の使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について理解できる。 目的に応じて観察資器材を使用することが出来る。							
〔授業全体の内容の概要〕							
テキストに準じた導入講義後、観察資器材のデモンストレーション。							
〔講師の実務経験〕							
徳島県鳴門市消防本部にて救急救命士として17年間勤務							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
救急活動で使用する観察資器材の使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について理解できる。 各種観察資器材を使用してシミュレーション実習で実践することができる。							
回数	講義内容						
1	胸骨圧迫、自動心マッサージ器の使用						
2	除細動、救急蘇生法						
3	気道確保、経鼻・経口エアウェイ						
4	声門上気道デバイス（LM、LT、WB、コンビチューブ）						
5	救急蘇生法（各プロトコール）						
6	救急蘇生法（成人、小児、乳児）						
7	口腔内吸引、酸素投与						
8	酸素投与、ショック、血圧測定、創傷の違い						
9	止血、創傷処置、包帯法						
10	血圧測定						
11	体位管理、体温管理、固定						
12	〃						
13	医学概論 復習						
14	〃						
15	二次救命処置、ヘリ搬送について						
	定期筆記試験						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名		著者名		出版社			
救急救命士標準テキスト上巻				へるす出版			
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】							
終講時試験。履修規定に準じる。							